

# リスク抑制世界8資産バランスファンド

## <愛称：しあわせの一步>

追加型投信／内外／資産複合

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「リスク抑制世界8資産バランスファンド」は、2019年7月11日に第16期の決算を行いました。

当ファンドは、主に国内外の公社債、株式および不動産投資信託証券（リート）の8資産にマザーファンドを通じて実質的に分散投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年1月12日～2019年7月11日

第14期	決算日：2019年3月11日	
第15期	決算日：2019年5月13日	
第16期	決算日：2019年7月11日	
第16期末 (2019年7月11日)	基準価額	10,340円
	純資産総額	115,825百万円
第14期～ 第16期	騰落率	4.9%
	分配金合計	30円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。  
(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

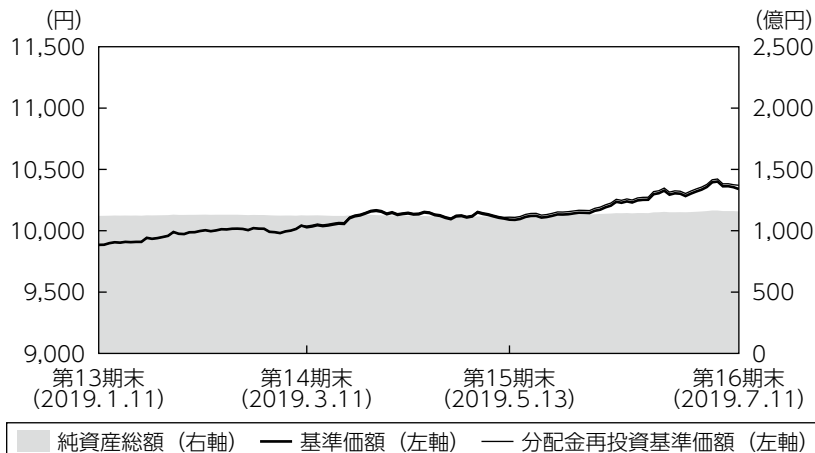
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第14期首： 9,885円  
 第16期末： 10,340円  
 (既払分配金30円)  
 騰落率： 4.9%  
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

2019年3月に、世界的に債券価格が上昇したことや、6月に、米中首脳会談の開催によって米中貿易摩擦等に対するリスク懸念の後退等から株式市場が上昇したこと、F R B (米連邦準備理事会) による利下げ期待の高まり等から、米国をはじめ各国の債券価格が更に上昇したことなどがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。

### ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	2.1%
国内株式パッシブ・ファンド(最適化法)・マザーファンド	4.6%
為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	4.7%
外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド	14.6%
J-R E I Tインデックスファンド・マザーファンド	13.0%
外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド	15.2%
エマージング債券パッシブ・マザーファンド	9.4%
エマージング株式パッシブ・マザーファンド	6.3%

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第14期～第16期		項目の概要
	(2019年1月12日～2019年7月11日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	37円	0.368%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,106円です。
(投信会社)	(18)	(0.176)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(18)	(0.176)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	( 2)	(0.016)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 0)	(0.001)	
(先物・オプション)	( 0)	(0.000)	
(投資信託受益証券)	( 0)	(0.000)	
(投資証券)	( 0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	( 0)	(0.001)	
(投資信託受益証券)	( 0)	(0.000)	
(投資証券)	( 0)	(0.001)	
(d) その他費用	1	0.008	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 1)	(0.007)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	( 0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	( 0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	38	0.379	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

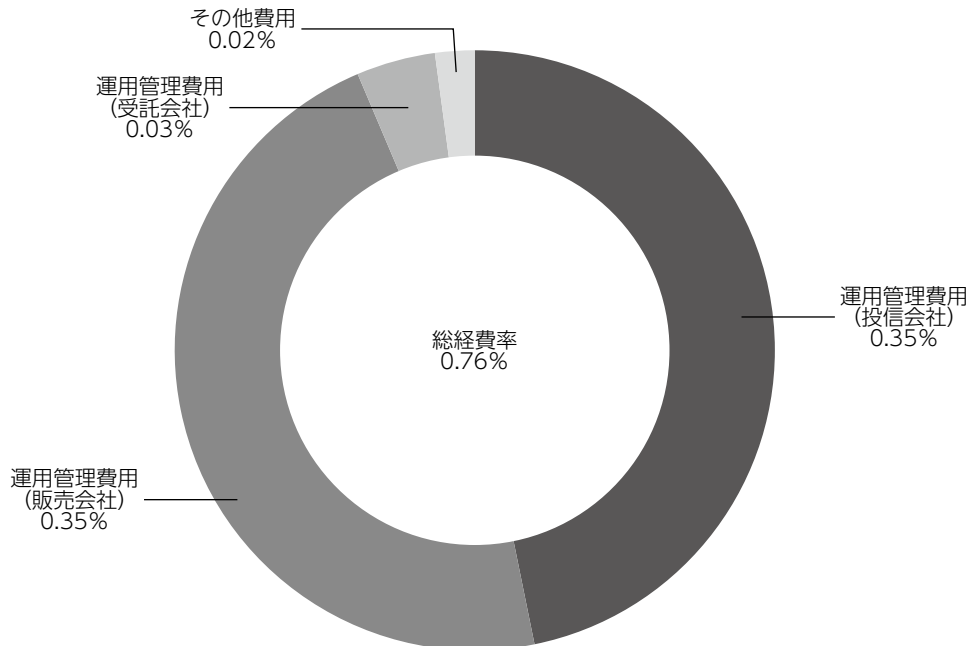
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.76%です。



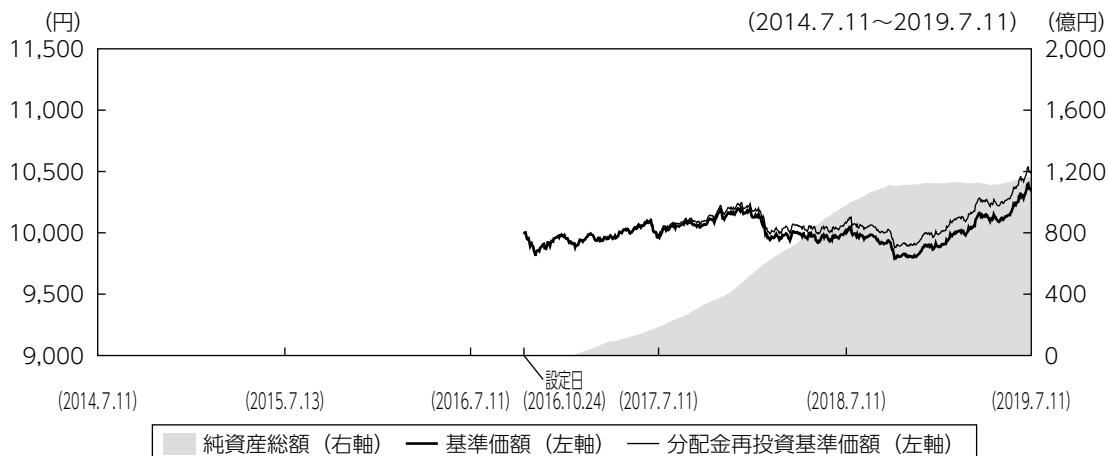
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 基準価額は、設定日前日を10,000として計算しています。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、設定日前日を10,000として指数化しています。

	2016年10月24日 設定日	2017年7月11日 決算日	2018年7月11日 決算日	2019年7月11日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,000	9,965	10,000	10,340
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	20	60	60
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△0.2	1.0	4.0
純資産総額 (百万円)	10	18,746	98,029	115,825

- (注1) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。
- (注2) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

## 投資環境

国内債券市場は上昇（利回りは低下）しました。世界景気の減速懸念や米中貿易摩擦の悪化懸念、欧米の政治リスクの高まりなどを背景に、10年国債利回りは期を通じて低下基調で推移しました。国内債券市場の好需給や、米国の利下げ観測なども、利回りの低下要因となりました。前作成期末にプラス圏だった10年国債利回りは、2019年2月以降概ねマイナス圏で推移しました。

国内株式市場は作成期初から2月下旬にかけては2018年12月の大幅下落の反動もあり、上昇しました。その後4月までは、米中貿易問題の進捗、ブレグジット（英国のEU離脱）問題、世界景気の減速懸念、トルコの信用不安などを材料として一進一退の展開となりました。5月に入ると、米中貿易摩擦の激化懸念や米国によるメキシコへの追加関税による景気後退懸念などを要因として下落しました。6月から作成期末にかけては、米国の利下げ観測や貿易摩擦問題の落ち着きなどを受けて値を戻す展開となり、前作成期末比では上昇となりました。

先進国債券市場では、米国債利回り、欧州債利回りがともに低下（価格は上昇）しました。米国では世界景気の減速懸念に加え、米中貿易問題やブレグジット等の不透明感があることから、FRBが政策金利を引き下げる可能性が高まり、米国債利回りは低下しました。欧州圏ではECB（欧州中央銀行）が経済見通しを下方修正したことなどから、欧州債の利回りは低下しました。

先進国株式市場は上昇しました。米国市場は、パウエルFRB議長が金融引き締めを急がない姿勢を示したことから、作成期初から4月下旬にかけて堅調に推移しました。その後、米中貿易摩擦への懸念などから下落しましたが、作成期末にかけては、利下げ期待の高まりなどを受け反発し、前作成期末比で上昇となりました。欧州市場も作成期初から概ね堅調に推移し、5月以降下落したものの、米国株式市場の上昇などを受け値を戻し、各国株式市場は前作成期末比で上昇となりました。

国内リート市場は、内需ディフェンシブ株の一角として株式投資家からの資金流入を支えに底堅い展開が続きました。積極的な資産入れ替え方針などによる投資主価値向上への期待が国内リート市場を支えました。作成期末にかけては、RBA（オーストラリア準備銀行）が利下げを行ったことや米国の10年国債利回りが低下するなど世界的に低金利環境が続くとの見方などから、国内リーートの分配金利回りの高さに着目した買いが入り更に上昇基調となりました。

外国リート市場は上昇しました。米国リート市場は、底堅い業績発表や長期金利の低下などを背景に堅調に推移しました。作成期末にかけて利益確定目的から売られる場面もありましたが、前作成期末比では上昇しました。欧州リート市場は、低金利環境の長期化への期待などから主要市場で上昇しました。豪州リート市場は、長期金利の低下や豪州経済への期待などから上昇しました。

新興国債券の利回りは低下しました。ベースとなる米国の長期金利は、世界景気の減速懸念や、米国における利下げ観測が強まったことなどを背景に低下しました。対米国債スプレッド（利回り格差）は、世界的な景気減速懸念などから、5月下旬にかけて拡大傾向で推移しました。その後は米国の利下げ観測の強まりを好感したことなどを背景にスプレッドは縮小し、期を通じてみると小幅に縮小しました。

新興国株式市場は上昇しました。作成期初から作成期央にかけては、F R Bのパウエル議長が利上げに慎重な姿勢を示したことなどから世界景気への先行き不安が和らぎ、堅調に推移しました。5月に入ると、米国による新たな対中制裁の発表やメキシコへの追加関税発動への警戒感から大幅な調整となりましたが、その後はメキシコへの関税発動の見送りやF R B高官らのハト派姿勢が好感され、値を戻す動きとなりました。

為替市場では、円は対ドルで横ばいとなり、対ユーロでは円高となりました。2月は米国の対中国への関税引き上げが延期され、米中貿易摩擦に対するリスク懸念が後退したことなどから、対ドルおよび対ユーロで円安になりました。しかし5月に米中貿易摩擦へのリスク懸念が強まったことなどから、対ドルおよび対ユーロで円高となりました。

## ■ポートフォリオについて

### ●当ファンド

#### 【基本配分戦略（月次）】

8つのマザーファンドおよび為替ヘッジに関する資産配分比率および通貨配分比率を月次で決定し、リバランスを行いました。期を通じ、安定資産へ65～80%程度、リスク性資産へ20～35%程度配分しました。

#### 【機動的配分戦略（日次）】

安定資産の下落するリスクが高まったと判断した作成期初から1月下旬にかけて、現金等の配分を高めました。また、リスク性資産が下落するリスクが高まったと判断した5月中旬に、リスク性資産の配分を減らしました。

### ○当作成期末の資産配分

資 産		比 率	
安定資産	国内債券	13.0%	74.5%
	為替ヘッジ先進国債券	61.5%	
リスク性資産	新興国債券	6.0%	22.8%
	国内株式	2.5%	
	先進国株式	2.0%	
	新興国株式	4.9%	
	国内リート	3.1%	
	先進国リート	4.2%	
現金等		2.7%	

※1 比率は純資産総額に対する割合です。

※2 国内債券：国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド、為替ヘッジ先進国債券：為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド、新興国債券：エマーシング債券パッシブ・マザーファンド、国内株式：国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド、先進国株式：外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド、新興国株式：エマーシング株式パッシブ・マザーファンド、国内リート：J-REITインデックスファンド・マザーファンド、先進国リート：外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド

※3 現金等とは、短期国債およびコール・ローンなどの短期金融資産等をいい、当該資産へは、「D I A Mマネーマザーファンド」を通じてまたは直接投資を行います。

●国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるNOMURA-BPI総合の銘柄入れ替えや、資金の流入・流出に応じて適宜債券の売買を実施し、リスク特性をベンチマークに極力一致させたポートフォリオを構築しました。

●国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド

ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）（配当込み）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

●為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース、為替ヘッジあり）とリスク特性を極力一致させたポートフォリオを構築しました。

●外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

●J-REITインデックスファンド・マザーファンド

配当落ち以外の場合ではリートの子組比率を高め、ベンチマークである東証REIT指数（配当込み）との連動性を保つように努めました。また、ベンチマークの構成銘柄の変更に応じたポートフォリオのリバランスを行い、資金の流入・流出に応じたきめ細かなポートフォリオ調整を実施し、ベンチマークと同等のリスク特性を維持しました。

●外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるS&P先進国REITインデックス（除く日本、円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

●エマージング債券パッシブ・マザーファンド

ベンチマークであるJPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円換算ベース・為替ヘッジなし）とポートフォリオのリスク特性を概ね一致させたポートフォリオを構築しました。なお、運用の基本方針で定められた格付による債券組入制限により、相対的に信用力の低い国の債券には投資しませんでした。

●エマージング株式パッシブ・マザーファンド

ベンチマークであるMSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。



## 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第14期	第15期	第16期
	2019年1月12日 ～2019年3月11日	2019年3月12日 ～2019年5月13日	2019年5月14日 ～2019年7月11日
当期分配金（税引前）	10円	10円	10円
対基準価額比率	0.10%	0.10%	0.10%
当期の収益	10円	10円	10円
当期の収益以外	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	329円	355円	515円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

### ●当ファンド

基本戦略である基本配分戦略（月次）および機動的配分戦略（日次）に基づき、各マザーファンドの組入比率および為替ヘッジ比率を定め、安定した収益の獲得をめざします。

### ●国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

引き続き、ポートフォリオのリスク特性をベンチマークに極力一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。

### ●国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド

引き続き、ベンチマークに連動する投資成果を目標としたパッシブ運用を行います。

### ●為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

引き続き、ベンチマークとポートフォリオのリスク特性を極力一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。

●外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド

引き続き、ベンチマークとポートフォリオのリスク特性を概ね一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。

●J-R E I Tインデックスファンド・マザーファンド

引き続き、リートの組入比率を高め、ベンチマークに連動する投資成果をめざした運用を行います。ベンチマークの構成銘柄の変更に応じたポートフォリオのリバランスを行い、資金の流入・流出に応じたきめ細かなポートフォリオ調整を実施し、ベンチマークと同等のリスク特性を維持するよう努めます。

●外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド

引き続き、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。

●エマージング債券パッシブ・マザーファンド

引き続き、ベンチマークの動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。

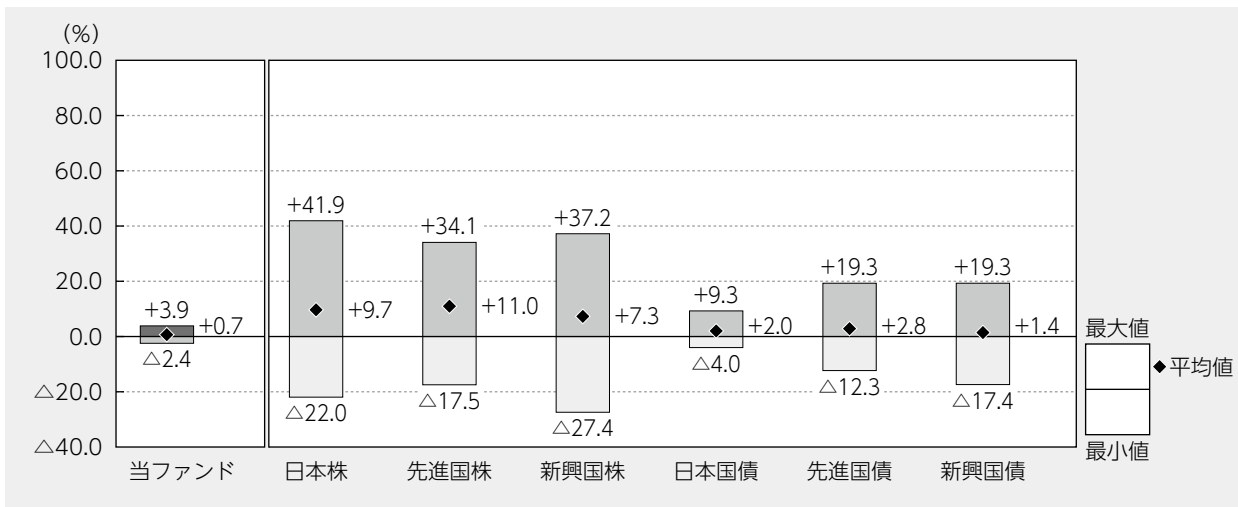
●エマージング株式パッシブ・マザーファンド

引き続き、ベンチマークの動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2016年10月24日から2027年7月12日までです。	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	リスク抑制世界8資産 バランスファンド	以下のマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、有価証券指数等先物取引等、指数に連動する投資成果をめざす上場している投資信託証券（ETF）、「D1AMマネーマザーファンド」受益証券や短期金融資産等に投資する場合もあります。
	国内債券パッシブ・ ファンド・マザーファンド	わが国の公社債を主要投資対象とします。
	国内株式パッシブ・ファンド （最適化法）・マザーファンド	東京証券取引所第1部に上場されている株式を主要投資対象とします。
	為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ ファンド・マザーファンド	海外の公社債を主要投資対象とします。
	外国株式パッシブ・ ファンド・マザーファンド	海外の株式を主要投資対象とします。
	J-REITインデックス ファンド・マザーファンド	東京証券取引所に上場し、東証REIT指数に採用されている（または採用予定の）不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
	外国リート・パッシブ・ ファンド・マザーファンド	日本を除く世界各国の不動産投資信託証券*を主要投資対象とします。 ※海外の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券とします。
	エマージング債券 パッシブ・マザーファンド	新興国の公社債を主要投資対象とします。
エマージング株式 パッシブ・マザーファンド	海外の証券取引所に上場している株式*を主要投資対象とします。 ※DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。	
運用方法	<p>主に国内外の公社債、株式および不動産投資信託証券（リート）の8資産にマザーファンドを通じて実質的に投資します。<sup>(*) (**)</sup></p> <p>基本配分戦略に基づき、統計的手法を用いて、資産価格に影響を与える「変動要因」の偏りをなくすように、月次で投資対象資産の基本配分比率および通貨配分比率を決定します。</p> <p>実質組入外貨建資産は投資環境に応じて弾力的に対円での為替ヘッジを行い、一部または全部の為替リスクの軽減を図ります。</p> <p>基準価額の変動リスクを年率2%程度 (***) に抑えながら、市場下落局面でも安定的な運用をめざします。</p> <p>基本配分戦略による「変動要因」の分散に加えて、機動的配分戦略に基づき相場環境の変化を日々判定し、組入資産を安定資産や現金等へ入れ替えることで基準価額の下落の抑制をめざします。</p> <p>(*) 一部のマザーファンドへの投資配分比率がゼロとなる場合があります。</p> <p>(**) 有価証券指数等先物取引等、指数に連動する投資成果をめざす上場している投資信託証券（ETF）へ直接投資する場合があります。</p> <p>(***) 上記数値は目標値であり、常にリスク水準が一定であること、あるいは目標値が達成されることのいずれを約束するものではありません。また、上記数値は当ファンドの長期的なリスク水準の目標を表すものであり、当ファンドが年率2%程度の収益を目標とすることを意味するものではありません。上記数値が達成されるかどうかを問わず、実際の運用成績がマイナスとなる可能性があります。</p>	
分配方針	決算日（原則として1月、3月、5月、7月、9月および11月の各11日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。	

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



当ファンド : 2017年10月～2019年6月

代表的な資産クラス : 2014年7月～2019年6月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2019年7月11日現在）

#### ◆組入上位ファンド等

（組入ファンド数：8ファンド）

	第16期末
	2019年7月11日
為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	61.5%
国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	13.0
エマージング債券パッシブ・マザーファンド	6.0
その他	19.5

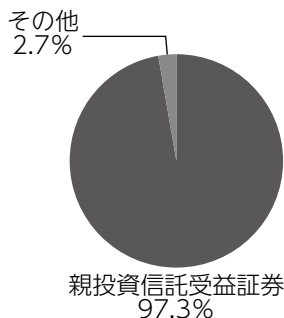
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入全ファンドに関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

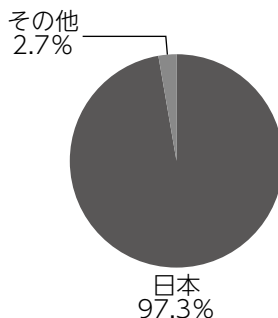
（注3）組入上位以外のファンドはその他に含めて集計しています。

（注4）現金等はその他に含めて表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

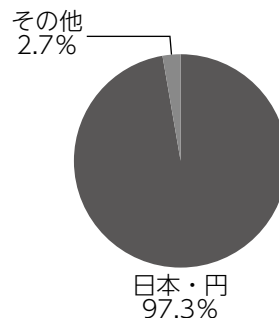
#### ◆資産別配分



#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

（注3）当ファンドの実質的な外貨建資産については、当ファンドにおいて弾力的に対円での為替ヘッジを行っています。なお、当作成期末における為替ヘッジ比率は9.1%（純資産総額に対する割合）です。

### 純資産等

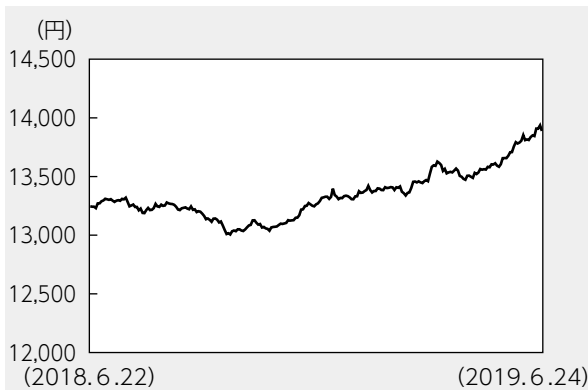
項目	第14期末	第15期末	第16期末
	2019年3月11日	2019年5月13日	2019年7月11日
純資産総額	112,387,541,044円	111,499,732,229円	115,825,350,985円
受益権総口数	112,071,025,571口	110,501,941,175口	112,017,477,497口
1万口当たり基準価額	10,028円	10,090円	10,340円

（注）当作成期間（第14期～第16期）中における追加設定元本額は12,917,578,650円、同解約元本額は14,279,473,407円です。

## 組入上位ファンドの概要

【為替フルヘッジ外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド】（計算期間 2018年6月23日～2019年6月24日）

### ◆基準価額の推移



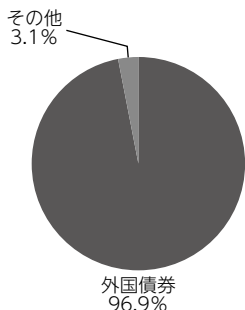
### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US T N/B 1.75 05/15/23	アメリカ・ドル	0.8%
US T N/B 1.5 03/31/23	アメリカ・ドル	0.7
US T N/B 2.25 11/15/25	アメリカ・ドル	0.6
US T N/B 2.75 08/15/21	アメリカ・ドル	0.6
US T N/B 1.375 08/31/20	アメリカ・ドル	0.6
US T N/B 2.625 07/31/20	アメリカ・ドル	0.6
US T N/B 3.125 11/15/28	アメリカ・ドル	0.5
US T N/B 2.25 04/15/22	アメリカ・ドル	0.5
US T N/B 1.5 08/15/20	アメリカ・ドル	0.5
US T N/B 2.625 02/15/29	アメリカ・ドル	0.5
組入銘柄数	693銘柄	

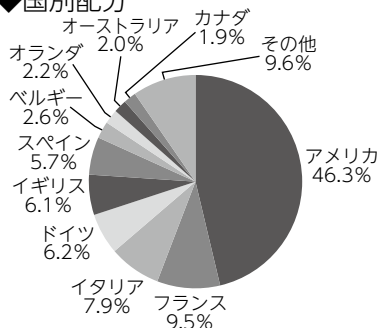
### ◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	1円 (1)	0.011% (0.011)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	1	0.011

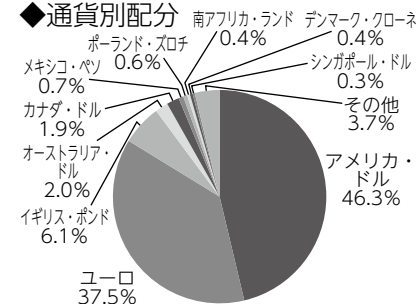
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（13,344円）で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ（1万口当たりの費用明細）をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 国別配分・通貨別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注6) 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行っています。

(注7) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

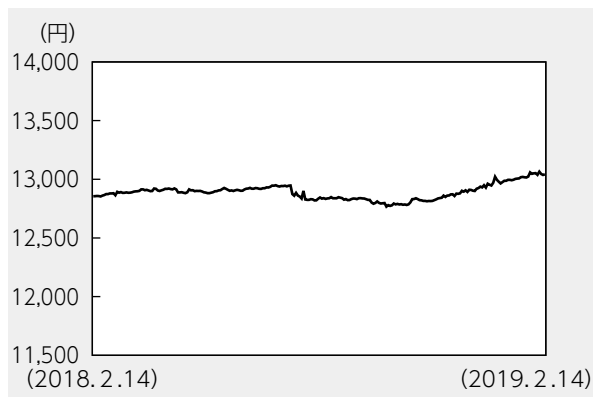
(注8) 国別配分は、発行国（地域）を表示しています。

(注9) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

## 【国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド】

(計算期間 2018年2月15日～2019年2月14日)

### ◆基準価額の推移



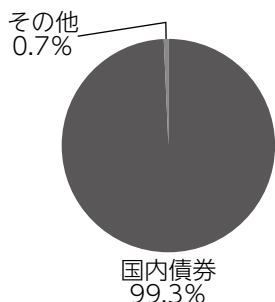
### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
1 2 5回 利付国庫債券 (5年)	日本・円	1.0%
3 5 0回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	1.0
3 4 4回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	1.0
3 4 5回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 4 2回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 4 1回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 3 2回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 4 3回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 4 0回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
3 3 9回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	0.9
組入銘柄数	422銘柄	

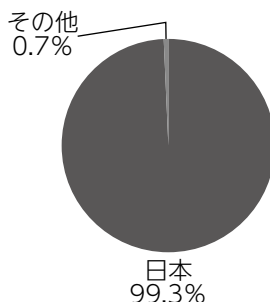
### ◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

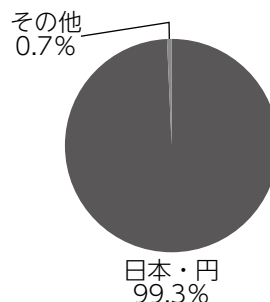
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(12,890円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

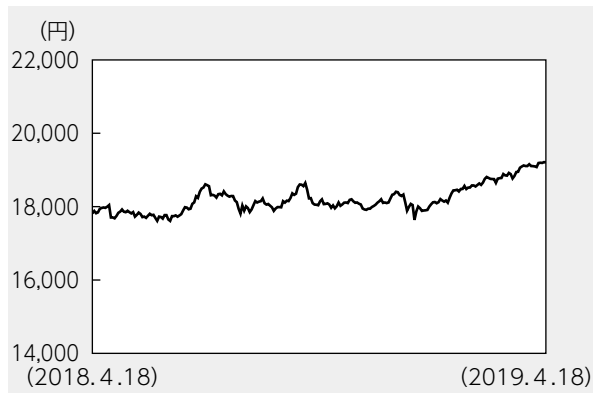
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【エマージング債券パッシブ・マザーファンド】 (計算期間 2018年4月19日～2019年4月18日)

◆基準価額の推移



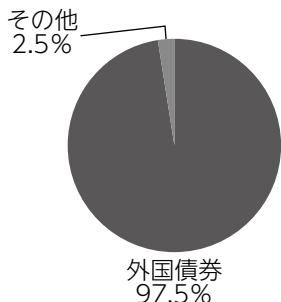
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
RUSSIAN FEDERATION 5.25 06/23/47	アメリカ・ドル	2.6%
PERU 5.625 11/18/50	アメリカ・ドル	1.9
COLOMBIA 5.0 06/15/45	アメリカ・ドル	1.8
HUNGARY 6.375 03/29/21	アメリカ・ドル	1.7
PERU 7.35 07/21/25	アメリカ・ドル	1.6
UNITED MEXICAN STATES 4.75 03/08/44	アメリカ・ドル	1.6
ROMANIA 6.75 02/07/22	アメリカ・ドル	1.5
BRAZIL 4.875 01/22/21	アメリカ・ドル	1.4
RUSSIAN FEDERATION 03/31/30	アメリカ・ドル	1.4
UNITED MEXICAN STATES 6.05 01/11/40	アメリカ・ドル	1.4
組入銘柄数	111銘柄	

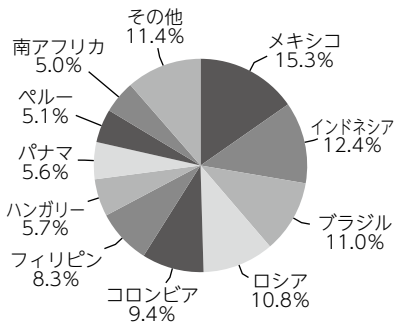
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用	2円	0.012%
(保管費用)	(2)	(0.012)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	2	0.012

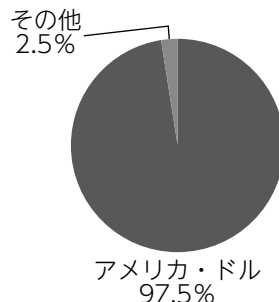
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(18,213円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄・資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。



## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

